

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
日本輸送機(株)新本館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境					0.40			3.7
1 音環境				3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 騒音				4.0	0.40	-	-	
1 暗騒音レベル		PAC室内機について、SA等に内貼を施している		4.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T-2グレードのサッシの採用		5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.4	0.35	-	-	3.4
2.1 室温制御				3.8	0.50	-	-	
1 室温設定				3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		Low-eペアガラス、庇の採用		5.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		冷暖フリーの採用		4.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 待機が空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.2	0.25	-	-	3.2
3.1 昼光利用				3.4	0.30	-	-	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		昼光利用制御の採用		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度				4.0	0.15	-	-	
1 照度		事務室設定照度は750lxとする。		4.0	1.00	3.0	-	
2 照度均斉性				-	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気環境				4.7	0.25	-	-	4.7
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		原則F☆☆☆☆を採用		5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ガス・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				4.6	0.30	-	-	
1 換気量		一人当たり25m3の風量を確保		4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		自然換気窓を事務室に設定		5.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		屋上よりの取り入れ		5.0	0.33	3.0	-	
4 換気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		2・4Fに喫煙ブースを設置		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.8
1 機能性				4.2	0.40	-	-	4.2
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		一人当たりの執務スペースが12㎡以上		5.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		40VA/㎡以上のコンセント容量、複数の通信事業者の回線引込み		4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室の天井高2.8mを確保。事務室の外壁3面に窓を設置。		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		喫煙コーナー、リフレッシュスペース、自販機を設置。		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		来客ゾーンは温かみのある内装計画としている。		5.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		掃除用流しを各階設置他		5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.31	-	-	3.2
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		配管については、更新寿命が長いものを選定		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新							
2.4 信頼性			4.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	サーバー室の別系統化	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	受水槽の二槽化、吊り配管の防振等	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機の設置、電源設備の地下空間への設置の回避	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAクラス	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機械の地下空間設置の回避	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.1	0.29	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	主要階高4.050mm	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出		敷地内緑化に努め、高木を積極的に配置	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		陰影のある外観として圧迫感を軽減	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制			4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然換気システムの採用	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電システムの採用	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=11	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
4.1	モニタリング	省エネモニタの採用	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネルギー目標値の策定	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉鋼材	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン剤の不使用	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場出入口を交差点から離れた位置に設置	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	1Fにゴミ置場を設置	4.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			2.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	